

問題 D

問 1 正しい組み合わせはどれか1つ選びなさい。

1. 鼻咽腔閉鎖 …… 改定水飲みテスト
2. 声門閉鎖 …… 反復唾液嚥下テスト
3. 食塊形成 …… 嚥下圧検査
4. 喉頭挙上 …… 嚥下内視鏡検査
5. 食道入口部開大 …… 嚥下造影検査

問 2 嚥下訓練・食事指導について誤っているものを一つ選びなさい。

1. 喉のアイスマッサージは持続効果は低いが即時効果があるので食事前に行う
2. シャキアエクササイズは定義通りに行くと患者さんに負担がかかるので注意する
3. プローイング訓練など患者さんの趣向を取り入れ楽しく持続するように工夫しても良い
4. 嚥下訓練を実施する際は吸引器を準備するなどリスク管理に努める
5. 嚥下障害者は自力摂取可能であっても誤嚥を予防するため、姿勢に注意し出来る限り食事介助を行う

問 3 臨床の現場では、嚥下機能のアセスメントではいくつかの方法がよく用いられる。嚥下機能の評価方法で正しいものを1つ選びなさい。

1. 改定水飲みテストでは、30mLの冷水を用いる。
2. RSST反復唾液嚥下テストの診断基準は、30秒間に何回の嚥下運動ができるかを数えるが、30秒間に3回以下を異常と判断する。
3. 100mL水飲みテストでは、100mLの水をできるだけ早く嚥下させる。この判定基準は嚥下速度が10mL/min未満を異常と判定する。
4. フードテスト(食物テスト)では、嚥下しやすいゼリー等を用いてテストを行うが、この際にはスプーンに8～10gのゼリーを用いる。
5. 実際の食事の場面や経口摂取の際には、血中酸素飽和度の推移を経皮的にモニタリングを行うが、この際に10%以上の低下が認められるときには経口摂取を中止する方が良い。

問 4 内視鏡で口腔咽頭や中咽頭部の観察を行った際に観察できないものは以下のうちのどれか？1つ選べ

1. 梨状窩
2. 喉頭蓋谷
3. 口蓋垂
4. 舌背
5. 咽頭後壁

問題D

- 問 5 咽頭期嚥下障害の間接訓練はどれか？(2つ選択)
1. 両唇音の構音訓練
 2. 舌の運動訓練
 3. バルーン拡張法
 4. 嚥下おでこ体操
 5. 咀嚼訓練
- 問 6 嚥下直接訓練において肺炎の徴候を知るのに有用なのはどれか？(3つ選択)
1. CRP
 2. 胸部聴診
 3. 血圧
 4. 血中ヘモグロビン
 5. 血中酸素飽和度モニター
- 問 7 食物を用いて行う嚥下訓練はどれか1つ選べ
1. バルーン拡張法
 2. 頸部回旋法
 3. ソフトブローイング法
 4. 咽頭アイスマッサージ
 5. シャキアエクササイズ
- 問 8 嚥下造影検査で診断できないのはどれか1つ選べ
1. 鼻咽腔への流入
 2. 咽頭流入
 3. 舌根の後方移動
 4. カーテン兆候
 5. 食道入口部の弛緩不全
- 問 9 摂食機能療法について誤っているのはどれか？1つ選べ
1. 介護福祉士が嚥下訓練を行った場合に算定できる。
 2. 言語聴覚士が嚥下訓練を行った場合に算定できる。
 3. 看護師、准看護師が嚥下訓練を行った場合に算定できる。
 4. 歯科衛生士が嚥下訓練を行った場合に算定できる。
 5. 理学療法士又は作業療法士が嚥下訓練を行った場合に算定できる。

問題 D

- 問 10 嚥下訓練について正しい組み合わせはどれか。番号を一つ選んでください。
- a 間接訓練は食物を用いる。
 - b 間接訓練は誤嚥のリスクが高い。
 - c 直接訓練は覚醒状態がよいときに行う。
 - d 直接訓練は嚥下反射を確認してから行う。
1. a b 2. a d 3. b c 4. c d
- 問 11 交互嚥下に関して誤っているものを選んでください。
- 1. 交互嚥下の主な対象は、口腔や咽頭、食道に残留がある人である。
 - 2. 交互嚥下とは、異なる性状の食塊を交互に嚥下することで残留物を除去することを目的としている。
 - 3. 水分誤嚥のない場合でも、水分は使用しない。
 - 4. 固形物と流動物を交互に嚥下させる方法である。
 - 5. 水分誤嚥がない対象で、連続で行っても効果が得られない場合は、最後に水分を嚥下する方法で効果を期待する。
- 問 12 リハビリテーションに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。
- 1. 温熱療法などの物理療法は、作業療法に含まれる。
 - 2. 作業療法は、身体又は精神に障害のある者に対して行われる。
 - 3. 理学療法と作業療法は、脳血管障害発症後の急性期には行わない。
 - 4. リハビリテーションには、教育や職業などの分野は含まれない。
 - 5. リハビリテーション医学では、障害の予防や再発予防は取り扱われない